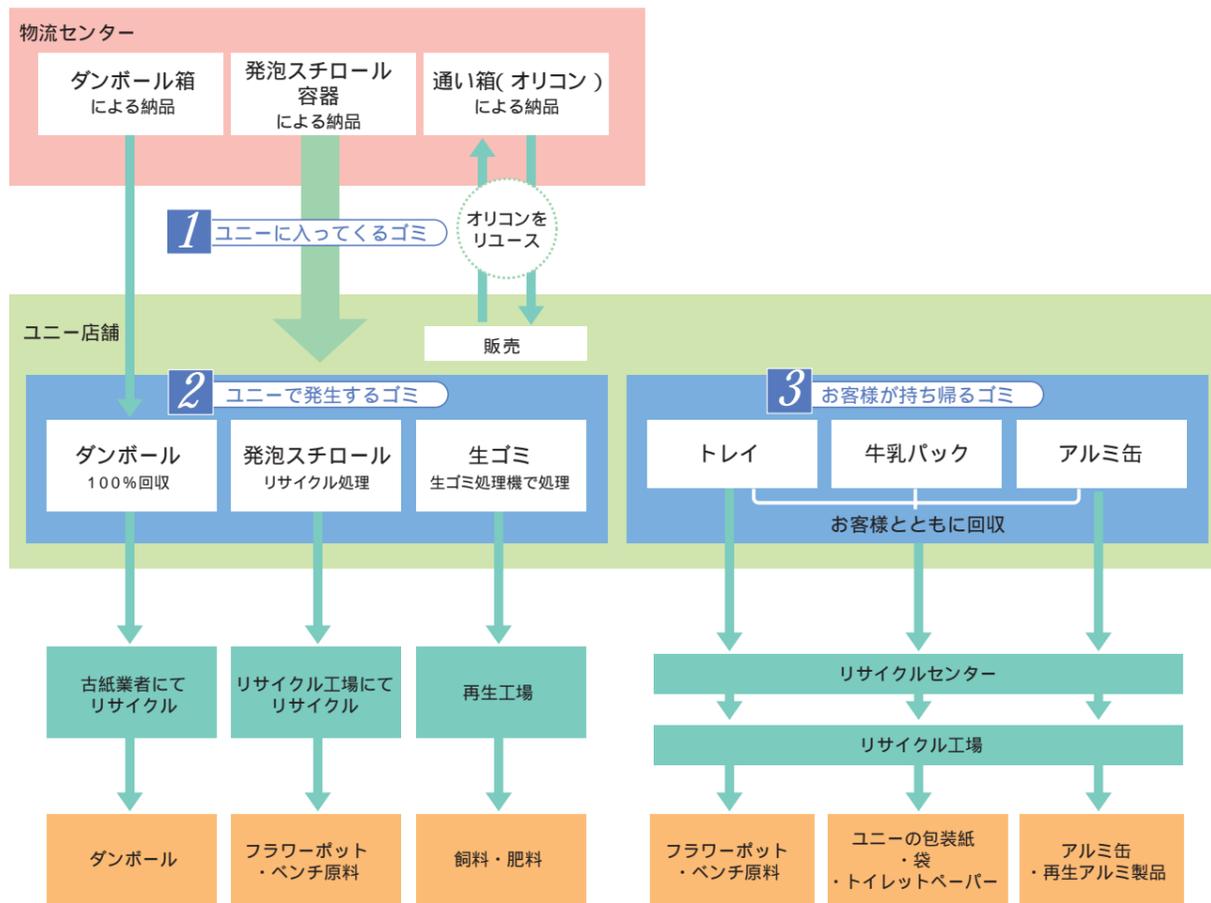


廃棄物をできる限り削減するために、商品搬入時の廃棄物を減らすと同時に、店舗で発生する廃棄物をリサイクルすることに取り組んでいます。お客様が商品として持ち帰った後で発生する空容器は店舗で回収、リサイクルセンターを介して再資源化しています。

廃棄物削減のための取り組み



1 ユニーに入ってくるゴミ

商品搬入時に商品を入れてきたダンボール箱や発泡スチロールの容器を使い捨てから通い箱(オリコン)にすることによって、廃棄物の発生を抑制しています。

2 ユニーで発生するゴミ

店の中での販売活動や商品加工・サービスから発生する廃棄物をリサイクル資源にする取り組みをしています。

1. 発泡スチロールの再資源化 (詳細はP19, 20)
2. 食品廃棄物の再資源化 (詳細はP21, 22)
3. ダンボールは100%リサイクル

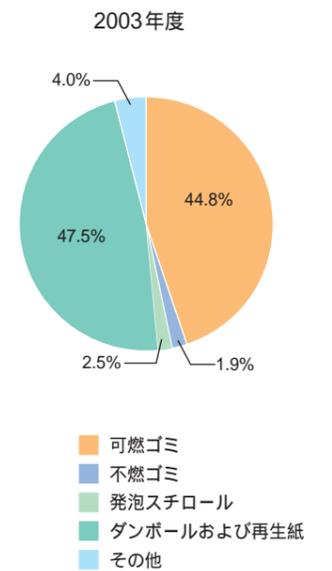
3 お客様が持ち帰るゴミ

牛乳パック(再生紙の原料)やアルミ缶(再生アルミの原料)、食品トレイ(再生プラスチックの原料)は、各店舗にリサイクルボックスを設置し、ゴミの再生利用をお客様と一緒に取り組んでいます。(詳細はP19, 20)

年間廃棄物排出量とリサイクルの流れ

区分	種類	2002年度	2003年度	
可燃ゴミ	焼却	一般可燃ゴミ	11,025,910	12,740,900
		ビニール(食品系)	145,202	3,001,600
		小計	11,171,112	15,742,500
	食品	生ゴミ	19,456,102	15,841,100
		魚のアラ	5,624,214	4,085,700
		天カス	602,493	707,800
		食用廃油	905,154	913,790
小計	26,587,963	21,548,390		
不燃ゴミ	ビン	539,321	663,000	
	缶	817,467	913,900	
	小計	1,356,788	1,576,900	
発泡スチロール		2,151,627	1,505,300	
ダンボールおよび再生紙	ダンボール	39,708,928	38,608,100	
	紙類(再生可)	610,979	958,700	
	合計	40,319,907	39,566,800	
その他	プラスチック	575,150	887,000	
	ビニール(衣住系)	2,325,115	1,442,500	
	ペットボトル	155,573	430,100	
	陶器、ガラス	104,658	53,800	
	金属カス	133,887	152,300	
	その他	74,486	358,400	
	小計	3,368,869	3,324,100	
合計		84,956,266	83,263,990	

データは、各年度ともユニー(株)当年2月21日～翌年2月20日までのものです。



リサイクル推進のため分別を強化したため、種類によっては増加したものもありますが、2002年度に比べて1692t排出抑制できました。

TOPICS

廃棄物の計量調査

廃棄物を削減するためには、廃棄物の内容や量を把握しなければなりません。そこでユニーでは、2000年から毎年6月の環境月間に、店舗での廃棄物計量調査を実施しています。リサイクル資源に活用することを考慮して、17分類に分別し、部署やテナントなどの排出場所ごとに計量しています。その結果、ダンボールおよび紙類・発泡スチロールなどの商品搬入時に発生する廃棄物

物が多いことがわかりました。また、食品リサイクル法の対象となる、食品廃棄物が2003年度では全体の約26%であることが確認できました。これらの廃棄物に適正に処理をしリサイクル資源にすることで、廃棄に出す量がかなり削減できる見込みです。2004年オープンのアビタ大和郡山店からは計量機を店舗に常設します。

